

障害があっても無理なく旅行を楽しめる「ユニバーサルツーリズム(UT)」が首都圏で広がっている。2020年東京五輪・パラリンピックでは国内外から多くの障害者らが首都圏を訪れるとみられ、民間を中心にハード・ソフト両面での整備が進む。自治体も民間事業者の取り組みを支援する。事業者にとっては費用がかさむ面はあるものの、幅広い客層の取り込みにつながる利点もある。

千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合は公式サイトに「ちばのハートフルな宿」と題した特設ページを設けている。車いす利用者と現地調査を実施し、実測した各宿泊施設のドアの幅や段差の高さなどを、写真とともに紹介している。

「施設が完全なバリアフリー対応でなくても、当事者の判断で利用できることもある」(同組合の武川豊事務局長)。障害者に的確な情報を提供



「水陸両用」の車いすで障害者らも海水浴を楽しめる(神奈川県鎌倉市)

官民が協力、環境整備進む

#ユニバーサルツーリズム 高齢や障害の有無にかかわらず、すべての人が楽しめるようつくりだした旅行のこと。観光庁は2012年度から、普及・促進に取り組んでい

ハッシュタグ #hashtag

18年に全国の旅行会社を対象にしたアンケート調査(回答者数442)では「障害者等向けの旅行を取り扱ったことがあ

る」と答えた企業が52%に上った。「現在障害者等向けの旅行を取り扱っている」「今後取り扱っていくきたい」と回答した企業は合わせて49%となった。課題としては「訪問先でのサポート体制の確保」「受け入れが可能な運輸・宿泊機関等の確保」「専門知識の習得・人材育成」が多く挙がった。

車いすで旅行 安心・快適に

するとともに、宿泊施設側は集客拡大につなげることをねらう。現在は9施設を掲載し、今後さらに増やしていく予定だ。

宿泊施設「房総鴨川温泉 是空」(千葉県鴨川市)では、掲載後に高齢者や障害者らの宿泊が増えたという。バリアフリー対応の特別な客室は備えていないが「細かな部分のサイズを公表するなど、少しの工夫で来てもらいやすくなる」(担当

者)と手応えを感じている。宿泊客は満足して帰ってくれ、リピーターも少なくないという。

神奈川県鎌倉市の観光協会も地元のNPO法人「湘南バリアフリーツアーセンター」と協力し、市内や近隣自治体の宿泊施設のバリアフリー状況を調査中だ。結果は11月末までにホームページ上で発信する予定。訪日外国人も多く、多言語で紹介する。同協会の大津定



千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合は宿泊施設を実際に訪れて出入り口の幅などを計測している

都 客室改修に補助 鎌倉市 海水浴を介助

博専務理事は「鎌倉に行けばUTがあると思っ

たらえれば」と話す。自治体はインターネットでの関連情報の発信や事業者への各種支援、さらには民間と組むなどし、UTの加速を目指す。

東京都は客室をバリアフリー化する事業者に最大4800万円を補助するほか、宿泊や飲食、バス・タクシー事業者らの接遇向上に向けた研修・マニュアル作成費用に150万円を上限に支出する。さらに、施設側の要望に応じて具体的な改修箇所や接遇方法などを助言する相談員を派遣し、障害者らを受け入れられる事業者の拡大を図る。

「海」でのバリアフリー化に取り組むのは鎌倉市だ。今夏、神奈川県や地元のと比方浜茶亭組合と連携し、と比方浜海水浴場に車いすでも使える仮設トイレを設置。車いすのまま海に入れる「水陸両用」の車いすを貸し出したほか、介助員も配置して障害者も海水浴を楽しめるようにした。

障害者が旅行しやすい環境は、高齢者や小さな子どもがいる家族連れにも優しい状況だといえる。特に今後さらに増加が見込まれる高齢者が積極的に旅行に出られるようにすることは、人口減少社会の中で訪日客の増加とともに観光業界にとって重要な課題だ。施設の改修や従業員の教育など事業者の負担は決して小さくないが、幅広い人が観光を楽しめる取り組みが求められている。

(貴田岡祐子)